２０１３／４／２８　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：わたしについて来なさい
聖書箇所：マタイの福音書　１９章２７節ａ

皆さんは“見張り人”ということばをご存じでしょうか。主なる神はあの預言者エゼキエルをイスラエルの見張り人としたとエゼキエル書の中に記されています。もちろんその当時、こういった見張り人というのが存在していました。彼らは城壁の上にあって、敵が自分たちの町に攻め込んで来ないように、敵の動向をいつも観察していました。敵が不穏な動きをするならばそれを味方に知らせる役割を持っていたのです。神が予言者エゼキエルをこの任に命じたのは、神様のメッセージを伝えるためだったと記されています。「**あなたは、わたしの口からことばを聞くとき、わたしに代わって彼らに警告を与えよ。**」とエゼキエル書の３章や３３章に出てきます。

ですから、エゼキエルには神様からの警告を伝えるという役割がありました。そう考えと、我々も見張り人です。私たちは今の世の中の流れを見ていて、今がどういう時代であるかを読み取ることができます。今私たちはこの時代を見ていて、日々起こっていることを見て、間違いなく世の終わりが近いことを知っています。神様のさばきの日が近いことを知っています。キリストの再臨の日が非常に近いということを知っています。だから私たちはまさに見張り人として、神様はそのようなことを警告されているのだと、罪のさばきがやって来るのだということを人々に語り続けて行く責任をいただいていると言っても過言ではないでしょう。

私たちはしっかりとこの救いのメッセージを人々に語り続けることです。イエス様は「**人は、たとい全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありましょう。**」と言われた。この世界を手に入れても、どんな富を手に入れても、どんな名声を得たとしても、罪の赦しをいただいていなければ、その人は永遠の地獄に行くのです。そしてそこでどんなに悔い改めようと、その人に救いはない。それを知っている私たちはそのことを人々に語り続けていかなければいけない。私たちの愛する者たちの中に、皆さんの愛する者たちの中に、今永遠の滅びに向かっている人がいるならば、我々は声を大にして彼らに語り続けなければいけないし、もちろん皆さんのされているように彼らのために祈り続けて行くことが必要です。

そして私たちはこの大切な救いのメッセージを語り続けていく責任があることを覚えると同時に、正しいメッセージを正しく語ることの責任も覚えることが必要です。語ることは大切なのです、語り続けて行くことは大切なのです。しかし同時に、語るメッセージが正しくなければいけない。私たちは正しいメッセージを語り続けて行くことが必要なのです。ですから私たちはこの救いに関して主がどのように私たちにこのメッセージを語っておられるのか、救いのメッセージとは一体どういうものなのかを繰り返し皆さんと一緒に学び続けているわけです。だってこれは我々の永遠に関するメッセージだからです。

◎　ペテロの「信仰告白」が教える「救い」

今朝も私たちは、きょうのテキストであるマタイ１９章からこの大切な救いについてご一緒に見て行きます。マタイ１９：２７の初めのところに、「**そのとき、ペテロはイエスに答えて言った。『ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。**」と書いています。このようにペテロが弟子たちを代表してイエス様に語るわけです。こうしてペテロのことばを聞くと、まさにここにペテロの信仰の告白が見て取れます。この彼の告白を見るならば、救いのメッセージとはどういうメッセージなのか、我々の信じることはどういうことなのかを私たちは知ることができます。ですから私たちは、この朝の時間、ペテロの信仰告白が教える救いについて見て行きます。

このみことばを理解するために、我々がしなければいけないことは、このみことばが記されている背景を知ることです。まず１９：１６、「**ひとりの人がイエスのもとに来て言った。**」とあります。私たちも既に見て知っていますが、若いお金持ちの役人がイエスの元にやって来た。何のためかというと、「**『先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。』**」と尋ねるためです。この人物の関心は、永遠の命でした。言い方を変えれば、どうしたら天国に行けるか、どうしたら罪の赦しを得ることができるかということです。しかし、永遠のいのちを得る方法に関して彼は間違っていたのです。彼は永遠のいのちを得る方法として、次のような理解をしていました。「**どんな良いことをしたら**」その救いを得ることができるかと言ったのです。ということは、彼はよい行ないを実践すれば、永遠のいのちを得ることができると信じていたわけです。この世の中はそういう人であふれています。私はいいことをしているから、私はこういう宗教に熱心だからとか、そういう行ないや行為でもって私たちは罪の赦しをいただき、

永遠のいのちに至ることができるのだと。
≪主が与えられた教え≫
①　イエス様はこの大切な問いかけをした青年に対して、彼が間違っていることをお教えになります。
②　そして同時にイエス様はこの若者に対して彼が一番聞きたかった、どうしたら永遠のいのちを得ることができるのか、つまり救いについてお話になります。
　このやり取りを見る時に、イエス様はこのひとりの青年に彼には救いが必要なのだ、彼は罪深い存在なのだということを悟らせようとこの会話を進めて行かれます。そして同時にどうしたらこの救いを得ることができるのか、そのことを教えられます。
Ａ．罪を明らかにされた主イエス
　まずイエス様は、この青年の罪を明らかにするのです。彼には救いが必要だということを明らかにします。彼がどれほど神の前に罪深い存在であるかということを明らかにするのです。このイエス様とのやり取りを簡単に見てください。「**どんな良いことをしたらよいのでしょうか。**」と問いかける彼に対してイエス様が言われたことは、１７節「**戒めを守りなさい。**」でした。つまり律法を守りなさいと言ったのです。そうすると、この青年は「どの律法ですか？」と答えるのです。イエス様がその律法を挙げられると、２０節で、この青年は「**そのようなことはみな、守っております。**」と言うのです。
　そこでイエス様はそう言っていながら実はこの青年が守っていないこと、彼が実際はこの戒め、律法を守っていないということを悟らせるために、２１節「**イエスは、彼に言われた。『もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。』**」と言われたのです。すると、この若者は２２節「**青年はこのことばを聞くと、悲しんで去って行った。この人は多くの財産を持っていたからである。**」と。
１．偶像崇拝者であること
　主イエス･キリストはこのやり取りで、この若者を愛して、この若者に彼の罪深さを悟らせようとしたのです。イエス様は彼の質問を拒否されたのではないのです。この青年に対して、あなたには救いが必要なのだということを悟らせようとし、そしてどうしたら救いに与るのかをお教えになったのです。この若者は気づかなければいけないことがあったのです。このやり取りを通して悟らなければいけないことがあったのです。イエス様は大切なレッスンを彼に与えておられるのです。イエス様は彼にあなたは偶像崇拝者なのだということを教えようとされたのです。
　偶像崇拝者というのは、まことの神様よりも愛するものを持っているわけです。まことの神様よりも大切なものを持っているわけです。それが偶像なのです。神以上に愛する存在、神以上に愛するものです。この青年にとって最も大切なものは、聖書が教えるように財産、金だったのです。イエス様が問われたことは、あなたはあなたの持っている財産よりも私を愛するかということだったのです。彼は、恐らくその質問を聞いた時に、みことばが記しているように非常に悲しく思えたでしょう。なぜならイエス様からその質問をされることは、彼にとって一番辛かった。だって彼はその財産を愛していたからです。この質問を通して、主イエス･キリストはこの青年に対してあなたは神を愛すると言っている、でも、実際のところは、あなたは神以上にあなたの財産を愛している、あなたの財産があなたの神なのだということを明らかにしようとされたのです。イエス様は彼の問題が何なのかちゃんと知っていました。そしてそれを彼に悟らせるために、このようにお話になったのです。
　私たちもそうです。生まれながらに我々は神を愛してはいません。神以外のものを愛する者です。そして何よりも私たちは神以上に私たち自身を愛しています。だから我々は我々の好きなように生きて行きたいと思っているし、自分の考えや自分の欲望に沿って生きて行こうとするのです。自分が満足すればそれでいい、自分が喜びさえすればそれでいいと。だって、私たちは自分を喜ばせるために生きているのです。自分にとって自分が神なのです。後で私たちも見て行きますけれども、パウロは、我々人間の問題について、私たちは神に仕えるのか、それともそれ以外のものに仕えるのかという話をします。我々はどちらかに仕えているのです。
２．隣人を愛していないこと
　あなたは神ではない、偽りの神に仕えているのだということをまず最初にお教えになった後、二つ目に、主がこの青年にお話になっているのは、あなたはあなたの隣人を愛していないということです。なぜかというと、イエス様はここであなたの持ち物を売って、貧しい人たちに与えなさいと言われました。彼らが困っているからです。彼らに必要があるからです。あなたは隣人を愛するように教えられているのだから、それを実践しなさいと。でも彼はそれに対してイエスと言わなかった。つまり、イエス様は、実際に１９節「**父と母を敬え。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。**」という戒めを実践しなさいと言われたのです。ところが彼は「いいえ、犠牲が伴うのだったら嫌です。」と。ごく一部を彼らに施しなさいだったら喜んでしたかもしれない。イエス様のなさっていることは、彼の心を彼自身に示すことです。彼

が一体何を愛しているのか、彼の本当の姿を彼自身に悟らせようとしたのです。あなたは隣人よりもあなた自身を愛していると。ですから、ここで主がなさったことは、この青年に対して、あなたはあなたの隣人を愛していない。律法を守っていると言っているけれども、守っていないでしょうと。

３．戒めを守れていないこと

もう一つあります。彼は守れていると言ったのですが、戒めを守れていないのです。彼は偽証の罪を犯しているのです。１８節の後半、「**殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしてはならない。**」と。このやり取りの中で、彼は守っていますと言いましたが、事実ではありません。守れていないのです。隣人を愛することもできていない、でもそれは律法なのです。あなたの神を心を尽くし、思いを尽くし、あなたのすべてをもって愛しなさい、守れていないのです。偽証してはならない、嘘をついてはならない。こうしてイエス様はあなたが守っていると言っているけれども、あなたは神の律法に逆らっているということを明らかになさったのです。本来ならばそこで「神様、私は守れていません、ゆえに私はあなたのさばきを受けてしかるべきです。どうぞ私を憐れんでください」と助けを求めるはずなのに、彼は自分の罪深さに気づいていません。非常に悲しいことです。

イエス様はここでこの青年を通して、人は行ないによって永遠のいのちを得ることはできないのだと言われている。なぜか――。それはだれひとりとして、神様の戒めを完全に完璧に守り行なえる人がいないからです。主イエス･キリストを除いては、すべての点で完璧にきよい人、正しい人はこれまでもいなかったし、これからもいないのです。ローマ３：２３が「**すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、**」と言います。みんな罪を犯しているから、どんなに努力をしても神様が要求されている完全なきよさに到達できるような人は存在しないと言うのです。

また同じようにローマ３：１０－１２でパウロはこう言います。「**義人はいない。ひとりもいない。: 11 悟りのある人はいない。神を求める人はいない。: 12 すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行なう人はいない。ひとりもいない。**」と。あなたたちが行なう、あなたたちが考える善はわたしの前では受け入れられないものだと神は言われるのです。すべては不完全だと言うのです。どこかの工場で何かの部品を作っている時に、１ミリの十分の一や百分の一の精密さを要求される部品であったら、１ミリくらい違っても構わないとは決して言わないわけです。完璧でなければいけない。だれひとりとして生まれながらに神様の前に完ぺきにきよい生き方をしている人はいないのです。そして今私たちがそのように生きて行きますという決心をしても、我々は誰ひとりとして神の前に完璧なきよい正しい生き方をすることはできない。だから行ないによって、救いを得ることは不可能なのです。そのことをこのひとりの青年に主は教えようとされたのです。どんなに努力をしても、どんなに熱心に正しいと思うことをやっていたとしても、人は行ないによって救いを得ることはないのだと。自分の努力では絶対にかなわない、得ることのない永遠のいのちは、神の方法で得ることをイエス様は教えられます。つまりこの人物に自分の力で救いを得ることはないのだということを悟らせた後、神にあって救いの道はあるという希望を明らかにされるわけです。

Ｂ．救いを明らかにされた主イエス：救いの真理を教えられた（どうしたら救われるか）

この青年の罪を明らかにされただけではなく、イエス様は救いを明らかにして行かれます。人はどうしたら救われるのか、どうしたら彼が望んだように永遠のいのちを得ることができるのか。そのメッセージへとイエス様は話を進めて行かれます。

２１節のみことばをもう一度見てください。「**もし、あなたが完全になりたいなら、**」あなたが望んでいるように永遠のいのちを得たいと思うなら、「**帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。**」と、イエス様はこのメッセージで二つのことを教えています。

１．　救いの難しさ

一つは、救いの難しさということです。私たちは以前このマタイ７：１３からメッセージを学びました。狭い門から入れ、本当の信仰にはいろいろな犠牲を伴うよと言われました。主が問うておられることは、どのような困難の中でも、わたしを愛しますかということです。どのような犠牲を強いられたとしてもあなたはわたしを愛しますかと。そしてあなたは自分よりもわたしを愛しますかと。救いをいただくということは大変難しいことです。ですから、ただ何となくイエス様を信じたらいいとか、地獄に行きたくなかったらイエス様を信じなさいというメッセージをイエス様はお語りになっておられない。あなたは心からわたしを愛するかと問われました。そしてわたしを愛するということは、あなたは喜んであなたのすべてのものを捨てることができるかということだと。

２．救いの道：「主イエスについて行く」こと

ですから、まずここでこの青年に対して再びこの救いの難しさをお話になった。そして救いの道についてこの２１節でお教えになっておられるのです。

後半に「**わたしについて来なさい。**」という命令をイエス様はお与えになった。まさに主イエス･キリストの救いへの招きのおことばです。このメッセージを聞いて、青年は悲しみながら去って行ったとあります。彼はこの招きに応じなかったのです。そして主に背を向けたままその場を去って行った。救いを求めてやって来たのに、主にこうしたら救いに至るのだ、救いを得ることができるのだと説明を受けたにもかかわらず、彼はそれをみずからの意思をもって拒むのです。そして、その様子を見ていたペテロは、２７節「**そのとき、ペテロはイエスに答えて言った。『ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。**」と言うのです。まさに今金持ちの青年が、イエス様の言われたことを拒絶して去って行ったのを自分たちは見ていた。そしてペテロたちは残った自分たちを見て、我々はこのついて来なさいという招きに応じてイエス様について来たということを、ここでパウロは言ったのです。

というのは２７節に、「**私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました**」とあります。この「**従ってまいりました**」というこのことばと２１節の「**ついて来なさい。**」というのは同じギリシャ語が使われているのです。ですから、イエス様が「**ついて来なさい。**」と言われた時に、その招きに対して私たちはあなたについて来たのですと応答しているのです。このことばは新約聖書の中に９０回出て来ることばです。その中の２５回は「従う」と訳されていますし、５７回は「ついて行く」とか、「ついて来た」と訳されています。残った８回は「後をつける」とか、「後を追いかける」とか、「仲間になる」といった意味で日本語に訳されています。

この一連の出来事を見る時、この青年は永遠のいのちへの神様の招きを拒んで、そして悲しいことにそのままの状態だったら彼は永遠の滅び、地獄へと至ったでしょう。しかし、主イエス･キリストはこの招きに応じたペテロたちに約束どおり永遠のいのちをお与えになりました。そしてその永遠のいのちをいただいた彼らに、イエス様が約束されたことは、あなたたちは神様からすばらしい祝福をいただくのだ、そのことがこの１９章の後半のところに出て来ます。

①　救われた者の特徴

さて、この２１節の「**わたしについて来なさい**」というそのことばは救いへの招きだと言っています。確かにイエス様を信じるというのは非常に抽象的だと思います。ですからいろいろなことばをもってイエス様は信じるということについて、救いに至る信仰について教えてくれています。この「主について行く」ということはその中の一つなのです。なぜそう言い切れるのかを今から説明します。主に従って行くということは救われた人々の特徴です。神様が人を救った時に、その人に間違いなく変化が出て来ます。その人は主に従って行こうとするのです。ヨハネ１０：２７で、イエス様がこんな話をされています。「**わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。**」と。２８節には「**わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。**」と続きます。永遠のいのちをいただく羊たちにはわたしについて来るという特徴があると言うのです。

クリスチャンとはどういう人々か、もし定義をするとすれば、ある人は「主によって救われた人たちだ」と言うでしょう。確かにそうです。またある人は「主によってその生き方が変えられた者である」と言うでしょう。聖書が私たちに教えてくれている救い、聖書が約束している救い、神様が私たちに与えてくださっている救いというのは、あなたを生まれ変わらせるものです。救いというのはそれだけの力を持っています。

ローマ６：４でパウロは、「 **私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。**」と言います。パウロは、罪の赦しをいただくと、その人は新しい歩みを始めて行くのだと言うのです。だから、その人は救われていると言えるのです。確かに我々はみんなわかっています。イエス様を信じた後も罪を犯さないかというと、悲しいことに罪を犯しています。同じような誘惑に敗北しています。悲しいことに、私たちはまだ完全ではありません。でも我々の心の中に神様の前に正しく生きて行きたいという新しい願いを持って私たちは新しい歩みを始めています。

パウロは救いに関して、ローマ１：５で「**このキリストによって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。**」と、私たちに教えています。パウロたちがこのように使徒としての働きを神様からいただいたのだという話をした後、「**それは、御名のためにあらゆる国の人々の中に信仰の従順をもたらすためなのです。**」と、何のためにこのような務めに与ったのか理由を説明します。パウロはここで二つのことを教えています。パウロたちが神様によってキリストの福音を語って行くために用いられる。そして、その福音によってどういうことが人々の間に起こるのか――。

(1)　生きる目的を変えるものである：「御名のために」――神の栄光を現わす

一つ目は生きる目的が変えられて行くのです。この福音によって、それを信じる人々の生きる目的が変わって行くのです。５節を見ていただくと、「**御名のために**」とあります。つまり新しく生まれ変わった人々というのは、神様の栄光のために生きて行こうとする人たちだと言うのです。これまで私たちは

生まれながらに自分のしたいことしていました。自分が喜ぶことを選択していました。そのように、自分中心に生きて来た私たちが、主イエス･キリストを信じ、救いに与ることによって、主である神のために生きようとし始めるのです。もう少し言えば、私たちが造られた創造の本来の目的に沿って生きる者へと神様は私たちを変えてくださるのです。ですから、この福音のメッセージを信じた信仰者というのは、イエス様のために生きよう、神様に喜んでいただくように生きて行こうと、そのように考え、そのように選択する者たちです。新しい目的を持って生きる者たちへと神様は変えてくださるのです。

(2)　生き方そのものを変えるものである：「信仰の従順」

もう一つは、生き方そのものを変えるのです。５節「**信仰の従順をもたらすため**」だと言っています。さっきから見ているように、この「**従順**」というのは、本当のクリスチャンの特徴です。というのは我々がイエス様を信じることによって何が起こったか――。ローマ１：１を見ると、「**神の福音のために選び分けられ、使徒として召されたキリスト・イエスのしもべパウロ、**」とあります。この「**しもべ**」と訳されていることばは、残念ながら差別用語の関係で、すべてのことばが使えるわけではありません。しかし、ここで使われている「**しもべ**」というのは、「奴隷」という意味を持っています。どんなことばを使ってもいいのだとすれば、我々はここに「奴隷」ということばを使わなければいけなかったのです。そういう意味なのです。つまりクリスチャンというのは神の奴隷となった者たちなのです。ですからパウロはここで「私はキリスト・イエスの奴隷なのだ」と言ったのです。そしてパウロだけではありません。ヤコブも「**神と主イエス・キリストのしもべヤコブ**」と言っています。同じように、「私は神の奴隷なのだ」とヤコブは告白するわけです。ペテロもⅡペテロ１：１で、「**イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロ**」と言っています。ユダも「**イエス・キリストのしもべであり、ヤコブの兄弟であるユダ**」と言っています。クリスチャンというのは、神様の奴隷なのです。

◎　罪の奴隷か神の奴隷か？

パウロは、我々人間はふたりの主人のどちらかに仕えていると教えます。神に仕えるのか、サタンに仕えるのかです。それに関してパウロは、ローマ６：１７－１８で「**神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、罪から解放されて、義の奴隷となった**」と言っています。どちらにしても我々はみんな奴隷なのです。罪に仕える奴隷なのか、義に仕える奴隷なのか、サタンに仕える奴隷なのか、まことの神に仕える奴隷なのかのどちらかなのです。２０節に「**罪の奴隷であった時は、あなたがたは義については、自由にふるまっていました。**」、つまり罪の奴隷であった時は、神様のことや神に喜ばれることなど一切考えもしなかったというのです。自分さえ楽しければそれでいいと、義については全く無関心だった。自分の欲を満足させることができればそれでいいと。罪の奴隷であった時は神様のことなど全く考えもしなかったのです。２２節「**しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。**」と、そういう罪の奴隷であった私たちが神様によって救い出されて、今度はきよさを求めて生きる者へと生まれ変わったと言うのです。

このようにきよさを求めて生きるから、その行ないが天国に導くのではないのです。天国に入ることができる者となったから、つまり救われたから、この人はそのことをきよさを求めるという生き方で証明しているということです。パウロはローマ６：１６の中で、「**あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。**」と言っています。罪の奴隷か、義の奴隷か、二種類の奴隷です。ここにおられるすべての皆さんはどちらかに属しています。そしてあなたが罪の奴隷だったら、あなたの心の中には神様に喜ばれたいとか、神様を喜ばせたいとか、神のみこころに従って行きたいとか、神の栄光を現わしたいという思いを持っていません。たとえそういうことを口にしたとしても、そういう人々の関心はどうしたら自分の欲をもっと満足させることができるのかです。しかし、神様が救ってくださったあなたは、確かに不完全だけれども、新しい願いを持っています。神に喜ばれたい、神様の栄光を現わして行きたい、主のみこころに従って行きたいという新しい思いを神様は下さった。そのことがあなたは生まれ変わったのだ、罪の奴隷であったあなたが神の奴隷となったのだということを明らかにすると言うのです。

罪の奴隷であっても、神の奴隷であっても、どちらの奴隷であっても、奴隷は一生懸命その主人に仕えています。イエス様はヨハネ８：４４で「**あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。**」と非常に興味深いことを言われています。罪の奴隷である人々、サタンの奴隷である人たちは悪魔の欲望を成し遂げたいと願って生きているのです。一生懸命罪を犯し続けているのです。神が喜ばれないことを平気で喜んで積極的に行ない続けているのです。そして同じ８：４７「**神から出た者は、神のことばに聞き従います。**」とあります。ですから、新しく生まれ変わった者、神の奴隷となった者たちは神様のおことばに従って行こうとするわけです。その後、「**ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。**」とあります。

イエス様は「**わたしについて来なさい**」と言われました。わたしがすべてを造ったまことの神だから、わたしが罪人であるあなたのために自分のいのちをもって救いを備えた救い主だから、わたしがこのすべてのものを支配している主権者なるまことの神だから、わたしを信じてわたしについておいでと。そしてついて行った人々、この救いに与った者たちは、その生き方が変えられたことによって、救いを与ったことを知ることができるのです。

このイエス様の「**わたしについて来なさい**」という命令を聞くと、あることを思い出します。人間というのは、あのアダムとエバから常に神に逆らうという選択をして来ていません？アダムとエバが神によって造られ、エデンの園に置かれた時に神様は、「この命令に従いなさい」と言われた。でも彼らは従わなかった。それゆえに彼らは死ぬものになりました。そしてそれがずっと続いているのです。神の言われることに私たちは従いたくないのです。しかし、そんな私たちに神はいつも呼びかけておられる。わたしについておいでと。

②　主の与えてくださる救いだから：救いは主のみわざである。だから、変わる！

もう一つだけ皆さんにお話しして終わりたいのですけれども、このマタイ１９章のついて来なさいというのが救いのメッセージであり、確かにそれが救われた人の特徴です。同時に、このような結果を生み出すのが神様の救いなのです。我々は自分は救われたと思っていても救われていない可能性が高いのです。だってみことばの中はそういう人々に対する警告にあふれています。主の前に立つ時に、救われていると思っていながら、実はハデスの門のところに立っている者たちが多いのです。だから「救われていますか？」と警告があるのです。このイエス様の招きに関してエゼキエルがこんなことを言っています。エゼキエル１１：１９－２０「**:19 わたしは彼らに一つの心を与える。すなわち、わたしはあなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしは彼らのからだから石の心を取り除き、彼らに肉の心を与える。:20 それは、彼らがわたしのおきてに従って歩み、わたしの定めを守り行なうためである。こうして、彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。**」と、救いの話です。しかもみことばが言うのは、従うという心を神様が人々のうちに与えてくれると言うのです。これが救いなのです。こうして神様は私たちを生まれ変わらせてくださるのです。ですから、先ほどからお話ししているように、私たちは自分で努力して救いに至ることはないのです。でも神があなたを救ってくださったら、神はあなたの心に主に従って行きたいという思いを与えてくださるのです。それが神様の下さる救いなのです。

確かに、狭い門から入れとか、きょうのこのマタイ１９章のみことばを見ても、こういうメッセージを余り人々が語りたくないのは、こういうメッセージは何か我々自身が救いの門をどんどん狭めているように人間的に思うからです。しかし、みことばが教えるのは、我々がどんなに狭めようと、神が人々のうちに働き、そして人々を救いへと導いてくださるのです。みことばが私たちに教えるのは、我々が神を選んだのではないのです。神が選んでくださり救いへと導いてくださった。クリスチャンである皆さんはそのことを感謝することです。あなたがいい人間だから神様は選んだのではないのです。神はあなたのうちに働き、この神様に従って行きたいという思いを与えてくださる。罪を犯し、神の前に間違っていた、この罪を悔い改めてこの神様に従って行きたいという思いをあなたのうちに与えてくださり、救いへと導いてくれたのは神なのです。だから私たちはこの神様をほめたたえるのです。これが神様の私たちに約束された、与えてくださった救いなのです。

確かに、人間の耳でもってイエス様のこの青年へのメッセージを聞いた時に難しいと思った、それはペテロたちも同じでした。マタイ１９：２５「**弟子たちは、これを聞くと、たいへん驚いて言った。『それでは、だれが救われることができるのでしょう。』**」と。救いに至る門が非常に狭く感じる。一体誰が救われるのだと。イエス様は２６節「**イエスは彼らをじっと見て言われた。『それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。』**」とお答えになりました。神が人を救ってくれるのです。神があなたを救ってくださったのです。そしてこの中でまだ救いを受けておられない方、神様はあなたに招きを与えています。わたしはあなたを造ったと、あなたの罪深さを全部知っていると。あなたは自分でどんなに頑張っても救いに至ることは、永遠のいのちに至ることはないと。そのすべてを知った上で、「**わたしについて来なさい**」と、わたしはあなたに招きを与えている。もしあなたが「主よ、確かに私は罪人であり、永遠の滅びに至って当然の者です。私は間違っています。あなたはきょうみことばを通して教えてくださった。私はあなたを私の神として、私の主人としてあなたについて行きたい。主よどうぞあわれみをもって私の罪を赦してください。あなたが主の前に救いを求めて出てくるならば、この招きに応じて私はあなたについて行きます」と決心するなら、神様は感謝なことに永遠のいのちを与えてくださるのです。

私たちがこの方に従うのはこの方が神だからです。我々はこのお方によって造られた被造物にすぎません。ちょうど奴隷が主人に従うように、僕らの責任はこの方に従って行くことです。我々は我々を造ってくださった方に従って行くのです。クリスチャンの皆さん、我々はご利益宗教を信じたのではないのです。私たちはこの神の前に「何をもらえるのですか」と言うのではないのです。もちろんペテロは

そのことを聞いています。そしてそのことにイエス様は怒りではなくて、愛を持って答えています。次回、我々はそれを見て行きます。皆さん覚えておいていただきたいのは、我々は正しいから、この方がまことの神だから信じているのでしょう？この方によって我々は造られ、そしてこの方によって生かされ、そして私がこの神様に対してどのように向き合うべきなのか。私はこの方を信じてこの方に従って行くという正しいことを我々は選択したのです。そして感謝なことに、神様はどんなにすばらしい祝福を信仰者であるあなたに与えてくださっているかです。まずあなたに罪の赦しを与えてくださった。罪はもう永遠に赦されました。あなたには永遠のいのちが与えられました。あなたはこの主なる全能の神様といつも交わる特権に与っています。あなたにはすばらしい羊飼いが与えられた。完全な知恵を持ち、完全な力を持ち、そして完全な愛を持ってあなたを守りあなたを導いてくださる方です。神があなたをしっかりと導いてくださる。あなたにはすばらしい希望が与えられました。死んでも生きるという希望です。我々は主イエス･キリストのお持ちになっていた喜びをいただきました。彼の持っていた平安をいただきました。我々のうちにはいつも私たちを慰めてくださる慰め主が、聖霊なる神様が与えられました。私たちはこうして教会を神様によっていただきました。ここにあって私たちは互いの信仰を高め合って行くことができます。励まし合って行くことができます。祈り合って行くことができます。ひとりひとりに神様は特別な霊的賜物を下さった。みんなが自分でそれを用いることによって、それぞれの信仰が成長して、教会が建て上げられて行くと。そして、神様の命令に従って行くための十分な恵みがもう与えられている。

これ以上皆さん何を望みます？我々が求める前から神様はちゃんとこのような祝福を備えてくださり、私たちに与えてくださったのです。なぜ我々は神様の前に求め続けて行かなければいけない、そんなふうに思ってしまうのでしょう。それよりも我々がしなければいけないのは、こんな祝福を下さった神様に感謝することです。もっとあれを下さい、これを下さいという不信仰な生き方から、神様、あなたは十分な恵みを下さった、祝福を下さった感謝しますという生活を始めるべきではありません？そして最後に私たちの感謝を表わす一番の方法は、この神様のおことばに従うことです。それを神様は望んでおられるのです。そしてあなたをそのように生まれ変わらせてくださったのです。どうぞ愛する兄弟姉妹の皆さん、神様のおことばに従うことによって、神様、私を救ってくださって感謝です、そのような歩みをなしてください。主はそのことを望んでおられます。まだイエス様をお信じになっておられない方、この主の招きにこたえてください。主を信じ、主に従う心からの決心をもって、この救いをきょうあなたのものとしていただきたい、心からお勧めします。

≪考えましょう≫

１.「ついて来なさい」という主の招きが、救いへの招きであることを説明してください。
２.　人はなぜ自分の努力によっては救われないのでしょう。
３.　人から尊敬されている立派な人たちは､そのすばらしい行いによって天国に入ることができるのでしょうか？その理由を説明してください。
４.　きょうのみことばの学びから、あなたが主に対して悔い改めを示されたことを挙げてください。